

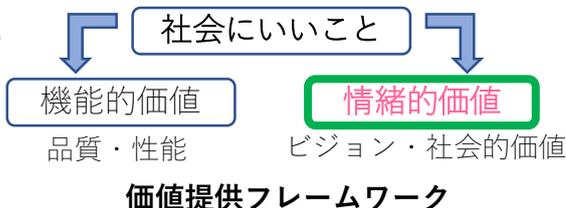
学生が“社会にいいこと”をするラボ (連携先：アリオ倉敷・三石中学)

ラボの課題

目的：社会課題の解決に向けて、学生のアイデアでSDGsの実現や社会貢献を果たす

「社会にいいこと」で実現する価値

価値提供フレームワークから、社会課題の解決に向けて、社会に提供すべき価値を「機能的価値」と「情緒的価値」の両面で検討し、その成果を各イベントで実現。



活動のあらまし

春学期

**アリオ倉敷
環境・防災イベント実施**

◆ 実行内容: 災害対策・環境課題を考える親子体験

学童・子ども食堂 課題検討

◆ 岡山市・玉野市 学童・子ども食堂ヒアリング調査

秋学期

**地域企業・学生の就職プロセスの
課題検討と解決**

実行内容：半田山祭就活イベント実施
◆ 理大キャリアセンターへの企画提案

**地域産業課題の検討と
解決へのアプローチ**

実行内容：倉敷環境フェアでの調査・出店
◆ 陶器リサイクル企業・三石中学校との資源リサイクル課題解決学習の実施



1年間の活動の総括・成果について

倉敷アリオ

- 150人のお客様に来て頂き、家族で防災や環境問題について学んでもらう経験を提供。
- 学びの経験としてだけでなく、家庭に持ち帰って活用してもらえるコンテンツを実現。

学童・子供調査

- 実際にヒアリング調査をし、期間中の課題解決は困難と判断したため解散。
- 想像していたような課題はなく、地域ごとに違う課題を持っていた。

就職活動イベント

- アンケート調査やイベントを通して、多くの就活生の意見や実情を聞くことができた。
- イベントで悩みをOB・OGに打ち明けることで就活や働くことのイメージ向上に繋がった。

倉敷環境フェア

- ラボが、リサイクル企業とイベント主催者との間に立ち、企業のイベント参加を誘致。
- リサイクル企業の信頼を得ると共に、多くの人にリサイクル陶器の問題を発信できた。

三石中学生大学

- リサイクル企業と地域の中学との接点を作り、地域発の備前焼資源の保全企画をコーディネートできた。
- 実際に、無印良品・天満屋等での販売を想定したパッケージデザインを中学生と開発。

担当教員：山口隆久、高橋良平、鈴川康晴
所属学生数 14名

ポスター制作：佐藤友也、田村昭人、渡部真尋、石井琳花